

所属学校名	弘前大学教育学部附属中学校		
PTA名称	父母と教師の会	会長名	工藤 直人
応募部門	組織改革部門		
事例名称	一部会員による活動から全員参加型へ		

【難航する委員決め】

従来は下記①の様に、各学級で選出された一部のPTA会員が学年委員と専門委員を兼務する形で委員会活動が行われていた為、委員となった者の負担が大きく、年度初めの委員決めにおいて大変苦労していた。入学式や全校参観日の後の委員選出では中々決まらず、担当する学級担任が各家庭に電話をしてお願いすることも多々見受けられた。

【対策－会員全員が委員会に所属】

現在はそれまでの各委員会の活動内容を見直し、学校側の意向も伺いながら下記②の様に7つの委員会とし、PTA会員全員を委員会に配属する形とした。配属は前年度から希望調査を行い、委員長も内定しておくため、新年度に円滑に委員会活動を始められるようになった。

この組織改革を進めるにあたり、混乱を招かないように複数年の移行期間を設けPTA会則等も総会での承認を得て変更した。現在の7つとした委員会も内容や構成を今後の展開によって容易に変えられる様配慮した。

① <従来>(平成26年度以前)

学年委員会		専門委員会
各学級(3学年各5クラス)から6名ずつ (各学年30名)	⇔	総務企画、保健体育、広報委員各2名 兼務 (各委員会30名)
全校で計90名の委員と三役(正副会長、監事)がPTA活動		



② <現在>(平成30年度)

総務企画、保健体育、広報、学年、交通安全、学校行事協力、歓送迎会の7委員会に各PTA会員の希望を調査して全員を配属

【現在－集まる 協力 子どもたちのため】

全会員を各自の希望を取った上で各委員会に配属した。委員会の活動案内は所属する全員に送っているが、活動への参加はあくまでも任意である。そのため、当初は集まり具合を心配していたが、現状では十分な人数が集まっており、また参加された方々も大変協力的で好意的である。以前に比べると共働き世帯も多くなり、年間を通してのPTA活動は厳しいが予め決まった限られた時間であれば対応できるという会員も多く、「子どもたちのために」という思いは強い。今後も学校側と協議をしながらPとTお互いにとって有意義な活動をしていけるよう改善していきたい。